

令和7年度

＜令和7年4月1日～令和8年3月31日＞

事業報告書

法人事業

幼保連携型認定こども園

美木多いっちゃん保育園

ベビーセンターいっちゃん保育園

社会福祉法人 美多弥福社会

1. 法人事業報告

■ 運営状況

- ① 幼保連携型認定こども園2園の運営に全力を投入。
- ② 社会福祉法人として、施設周辺の地域事情を踏まえながら、教育・保育と地域福祉に寄与すべく努力を重ねた。

■ 組織の動き

前年度同様、法人本部としての機能を強化を模索してきたが、有効な対策を取れるところまで至っていない。専門業務を可能な限りアウトソーシングすることで、諸規程等の見直し、必要な対応を実施できた。引き続き次年度も継続していく。

両園（美木多いっちゃん保育園、ベビーセンターいっちゃん保育園）の教育・保育の特徴を生かした差別化を引き続き実施。日常活動、食育活動、保健指導等、国施策の変更に伴い、再構成を継続してきた。

定時評議員会は年間1回とし、理事会については、事案が発生した場合の開会。

■ 堺市指導監査の状況

堺市指導監査については令和7年9月に実施された。

■ 施設の職員体制

求人募集は難しい状況が続いていたが、当園への実習等により来年度に向けて新しく2名の採用（正規職員）ができた。今年度は1名の退職者（正規職員）が出た。

現在、1名が育児休業取得している。（令和8年度中で復職調整）

■ 法人運営費

現状では、資金の確保は寄付以外はなく、独自の収入確保が今後の展開となる。

■ 施設の動き

ベビーセンター（分園）の外壁部分のクラックについては、工事实施の持ち越しとなっており、懸案とあっているが、さらに次年度以降に持ち越しすることとした。

■ 教育・保育力の向上、労働時間短縮への内部努力

全職員が平均して力を発揮することは難しく、個人の得手・不得手は否めない。専門的な内容は専門講師に委ね、行事等を見直すことにより、労働時間の短縮を実現している。

日々の保育準備、行事準備による職員の疲弊を和らげるよう法人努力をしてきた。

■ 正課、課外教室（専門講師による）

体育指導、ECC英語（正課及び課外）、ダンス指導（正課）、国語・算数指導（正課及び課外）

※ 課外教室について、多くの入会希望がある。

■ 「美木多いっちゃん保育園・ベビーセンターいっちゃん保育園」事業報告

周辺地域における乳幼児の育ちの場を提供し、求められるサービスを提供するため、努力をしてきた。入園して、安心できる園、満足度を向上させるため、違う角度からのアプローチを重ねたり、従来からの保育を継続してきた。2園のそれぞれの特徴を生かして、教育・保育とその責任を果たすべく、一層のレベルアップを図った。保護者に理解を求めながらも、変化をし続けていくことも日々検討しながら邁進した。

■ 令和7年度 入所状況結果（令和8年3月1日）

美木多いっちゃん保育園		ベビーセンターいっちゃん分園	
0歳		0歳	13
1歳	12	1歳	15
2歳	14	2歳	20
3歳	26		
4歳	28		
5歳	32		
計	112	計	48

南区全体の待機児童数は減少を続けており、今後入所希望が減少すると見込まれる。育休明けに入所申し込みが集中するため、4月当初の0歳児の入所希望が減となる。但し、途中入所については、職員配置及び最低基準面積の関係から、入所をお断りするケースがあった。一時預かり保育については、利用者のニーズに応えるため、可能な限り実施した。

■ 月一回の「地震・火災訓練」に力を入れて、今後懸念されている、南海トラフ地震の発生時に園として体制を整えていく。ただし、新型コロナウイルス感染症に伴い、訓練終了後の集会はなくした。

- 障がい児保育については、堺市からの巡回訪問相談員から助言を頂きながらも、美木多いっちゃん保育園が、教育面を重視する方針としたことが影響しているか、障がい児の入所はない。

- 職員処遇について
 - ① 週休二日制を継続、法律改正による有給休暇取得（5日以上付与義務）を完遂できた。職員検診、予防接種の勧奨、検便等により健康管理に努めた。また、職員のストレスチェックを実施、腰痛体操を実施。看護師により分析、結果をまとめた。
 - ② 内部研修、外部講師による研修を実施。職員のレベルアップに繋げた。
 - ③ 全職員を対象に、保育士等処遇改善手当Ⅱによる手当を一定の要件を満たした職員に支給した。（最大年間支給額 480,000 円）次年度もこの施策は継続とされることから、支給要件を検討して、公平性を保ちつつ職員に充当する。

- 保護者・地域活動について
 - ① 日々の引き継ぎ、説明責任、健康管理の励行（手洗い・うがい）を進めた。
 - ② 園庭開放（ベビーセンターいっちゃん保育園のみ）、地域子育てサロンへの職員派遣を行った。
 - ③ 地域の小学校見学を実施。（年2回、2月はインフルエンザ流行のため見送る）
 - ④ 保護者会等の組織がないため、行事後等にアンケートを実施、結果を保護者に伝えるとともに、内容を精査して改善すべき点は改善してきた。生活発表会後のアンケートについては、保護者の感染意識の差異が見られた。

- 施設、設備等について
 - (ア)ID カードによる登降園を行い、防犯カメラにより安全面を重視して進めてきた。
 - (イ)保育計画、保健関係の機能アップを図るべく、新システムをアップデート稼働。
 - (ウ)情報漏洩を防止するため、ネットワークセキュリティの構築を実施した。
 - (エ)暑さ対策のため、初夏から秋まで、園庭の日除け（寒冷紗）を設置した。
 - (オ)消防機器、110 番通報機器、エレベーター等の委託点検を実施した。
 - (カ)毎月、施設の安全チェックを行った。
 - (キ)発達障がい（或いは愛着障がい）と思われる子どもに対して、慎重に保護者との面談を行ってきた。行政とも連携を強化してきた。
 - (ク)ICT、ことにAIによる合理化を進めていく。

■ 次年度の予定

- A)ベビーセンターいっちゃん分園の壁補修工事
- B)ベビーセンターいっちゃん分園の館内放送工事

■ 資金の動き

- イ) こども園の経費は、運営助成金、補助金収入で賄った。
- ロ) 施設整備等協力金を修繕費に充当した。

■ 次年度の展開

両園、安全で美しい園舎を維持するため、維持管理に努め、必要があれば補修を都度実施する。引き続き、全体の経費の削減に努め、ランニングコストを削減する。

■ その他

採用における人件費が圧迫（人材紹介会社への手数料）している。人件費積立を継続。明かに全国的な出生率の低下は、堺市南区の入所減につながっている。